



平成21年5月19日

各位

株式会社T&Dホールディングス
 (コード番号 8795 東証・大証第一部)
 太陽生命保険株式会社
 大同生命保険株式会社
 T&Dフィナンシャル生命保険株式会社

平成21年3月期決算(案)のお知らせ

T&D保険グループ (T&Dホールディングス、太陽生命、大同生命、T&Dフィナンシャル生命) の平成21年3月期 (平成20年4月1日～平成21年3月31日) の決算(案)について、以下のとおりお知らせいたします。

契約業績

- 生命保険会社3社合算の契約業績 (個人保険・個人年金保険) は、
 新契約高は、5兆9,910億円、前年から3.4%の減少、
 解約失効高は、5兆3,732億円、前年から6.1%の増加、
 保有契約高は、58兆971億円、前年度末から2.1%の減少となりました。

損益関係 (T&Dホールディングス連結)

- 経常収益は、2兆5,398億円、前年から9.0%の増加、
 うち、保険料等収入は、1兆6,544億円、前年から2.6%の増加となりました。
- 経常利益 (△損失) は、△1,838億円、前年から3,395億円の悪化となりました。
- 当期純利益 (△損失) は、△890億円、前年から1,258億円の悪化となりました。
 以上については主に、世界的な金融危機の影響等に伴い資産運用費用が増加し、資産運用関係収支 (一般勘定) が悪化したためです。

株主配当

- 1株当たり年間配当金は、45円を予定しています。

以上

【お問合せ先】

株式会社T&Dホールディングス	広報部	関山	TEL 03-3434-9181
太陽生命保険株式会社	広報課	木村	TEL 03-3434-5257
大同生命保険株式会社	広報課	古谷	TEL 03-3434-9190
T&Dフィナンシャル生命保険株式会社	広報課	稲生	TEL 03-3434-8840

[契約業績（個人保険・個人年金保険）]

（単位：億円）

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
新契約高	59,910	2,107 減 (3.4%減)	20,131	5,390 増 (36.6%増)	37,616	8,726 減 (18.8%減)	2,162	1,228 増 (131.6%増)
解約失効高 (解約失効率)	53,732	3,090 増 (6.1%増)	12,455 (7.25%)	1,030 減 (7.6%減) (0.39ポイント低下)	39,924 (10.01%)	4,423 増 (12.5%増) (1.08ポイント上昇)	1,353 (5.98%)	302 減 (18.3%減) (0.58ポイント低下)
保有契約高	580,971	12,432 減 (2.1%減)	173,552	1,730 増 (1.0%増)	386,218	12,752 減 (3.2%減)	21,200	1,410 減 (6.2%減)
新契約年換算保険料	1,342	167 増 (14.2%増)	331	3 増 (1.1%増)	597	122 減 (17.0%減)	412	285 増 (224.1%増)
うち医療保障・ 生前給付保障等	128	6 減 (4.9%減)	96	0 増 (0.6%増)	32	7 減 (18.2%減)	—	— (—)
保有契約年換算保険料	14,126	133 減 (0.9%減)	6,130	242 減 (3.8%減)	6,648	243 減 (3.5%減)	1,346	353 増 (35.5%増)
うち医療保障・ 生前給付保障等	1,701	39 減 (2.3%減)	1,103	7 減 (0.6%減)	543	26 減 (4.7%減)	55	6 減 (10.1%減)

(注) 新契約高には転換による純増加高を含んでおります。

< 3社単純合算 >

- ・新契約高は、5兆9,910億円、前年から3.4%の減少。これは、太陽生命およびT&Dフィナンシャル生命は増加したものの、大同生命で減少したため。
- ・解約失効高は、5兆3,732億円、前年から6.1%の増加。これは主に大同生命で解約が増加したため。
- ・保有契約高は、5兆8,971億円、前年度末から2.1%の減少。

○太陽生命

- ・新契約高は、2兆1,311億円、前年から36.6%の増加。これは主に、昨年10月に新発売した「保険組曲Best」の販売が好調であったため。発売から6ヵ月間で約10万件を販売した。（「保険組立特約」により組み合わせられた件数でカウント）
- ・解約失効高は、1兆2,455億円、前年から7.6%の減少。
- ・解約失効率は、7.25%、前年から0.39ポイントの低下。
- ・保有契約高は、1兆7,352億円、前年度末から1,730億円、1.0%の増加。
- ・保有契約年換算保険料は、6,130億円、前年度末から3.8%の減少。

○大同生命

- ・新契約高は、3兆7,616億円、前年から18.8%の減少。
- ・解約失効高は、3兆9,924億円、前年から12.5%の増加。
- 以上については主に、景気悪化に伴い主力の中小企業マーケットでの契約業績の落ち込みや解約払戻金の多い長期定期保険を中心とした解約が増加したため。
- ・解約失効率は、10.01%、前年から1.08ポイントの上昇。
- ・保有契約高は、3兆8,218億円、前年度末から1兆2,752億円、3.2%の減少。
- ・保有契約年換算保険料は、6,648億円、前年度末から3.5%の減少。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・新契約高は、2,162億円、前年から131.6%の増加。
これは主に、新商品（変額個人年金保険）の導入効果による。
- ・解約失効高は、1,353億円、前年から18.3%の減少。
- ・解約失効率は、5.98%、前年から0.58ポイントの低下。
- ・保有契約高は、2兆1,200億円、前年度末から1,410億円、6.2%の減少。
うち、変額個人年金保険の保有契約高は、6,749億円、前年度末から781億円、13.1%の増加。
- ・保有契約年換算保険料は、1,346億円、前年度末から35.5%の増加。

[損益関係]

(単位：億円)

	T&Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当連結会計年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
経常収益	25,398	2,097 増 (9.0%増)	11,121	1,118 増 (11.2%増)	12,505	1,141 増 (10.0%増)	2,853	1,048 増 (58.1%増)
うち保険料等収入	16,544	412 増 (2.6%増)	5,966	391 減 (6.2%減)	8,119	313 減 (3.7%減)	2,457	1,116 増 (83.3%増)
うち資産運用収益	4,072	381 減 (8.6%減)	2,326	30 増 (1.3%増)	1,723	333 減 (16.2%減)	286	88 増 (44.5%増)
経常費用	27,237	5,493 増 (25.3%増)	11,758	2,325 増 (24.7%増)	13,438	3,121 増 (30.3%増)	3,121	1,220 増 (64.2%増)
うち保険金等支払金	18,142	1,672 増 (10.2%増)	8,037	566 増 (7.6%増)	9,242	1,198 増 (14.9%増)	863	92 減 (9.7%減)
うち資産運用費用	6,117	3,697 増 (152.8%増)	2,418	1,657 増 (217.6%増)	2,884	1,938 増 (204.8%増)	1,031	252 増 (32.4%増)
経常利益 (△損失)	△1,838	3,395 減 (-)	△636	1,207 減 (-)	△933	1,979 減 (-)	△268	171 減 (177.6%増)
特別利益	872	811 増 (1,330.0%増)	542	535 増 (7,827.4%増)	326	275 増 (535.4%増)	0	0 増 (224.0%増)
特別損失	33	342 減 (91.2%減)	6	209 減 (96.8%減)	10	143 減 (93.1%減)	12	12 増 (5,782.6%増)
契約者配当準備金繰入額 (△戻入額)	89	364 減 (80.2%減)	27	112 減 (80.3%減)	62	250 減 (80.1%減)	△0	1 減 (-)
税引前当期純利益 (△損失)	△1,089	1,878 減 (-)	△128	349 減 (-)	△679	1,311 減 (-)	△280	182 減 (184.6%増)
法人税等合計	△199	620 減 (-)	27	73 減 (73.0%減)	△158	485 減 (-)	△82	53 減 (182.1%増)
当期純利益 (△損失)	△890	1,258 減 (-)	△155	276 減 (-)	△520	825 減 (-)	△198	128 減 (185.6%増)
(参考) 資産運用関係収支 (一般勘定)	△873	3,854 減 (-)	△80	1,623 減 (-)	△1,026	2,300 減 (-)	279	84 増 (43.6%増)

(注) 1. T&Dホールディングス連結の数値については、生命保険会社3社の単純合算とは必ずしも一致いたしません。
2. 保険料等収入の3社単純合算は1兆6,543億円(前年比2.6%増)であります。

< T & Dホールディングス連結 >

- ・ 経常収益は、2兆5,398億円、前年から9.0%の増加。これは主に、責任準備金戻入額が増加したため。
 - ・ 経常利益 (△損失) は、△1,838億円、前年から3,395億円の悪化。
 - ・ 当期純利益 (△損失) は、△890億円、前年から1,258億円の悪化。
- 以上については主に、世界的な金融危機の影響等に伴い資産運用費用が増加し、資産運用関係収支 (一般勘定) が悪化したため。

○太陽生命

- ・ 保険料等収入は、5,966億円、前年から6.2%の減少。
これは主に、個人保険および団体年金保険の保険料が減少したため。
- ・ 資産運用収益は、2,326億円、前年から1.3%の増加。
- ・ 保険金等支払金は、8,037億円、前年から7.6%の増加。
これは主に、団体年金保険のシェア変更に伴う支払金の増加のため。
- ・ 資産運用費用は、2,418億円、前年から217.6%の増加。
これは主に、内外株式等の残高圧縮 (リスク性資産の削減) を進めたことに伴い、有価証券売却損を計上したこと等による。
なお、資産運用関係収支 (一般勘定) は△80億円、前年から1,623億円の減少。
- ・ 経常利益 (△損失) は、△636億円、前年から1,207億円の悪化。
- ・ 当期純利益 (△損失) は、△155億円、前年から276億円の悪化。
なお、危険準備金を250億円、価格変動準備金を532億円取り崩した。

○大同生命

- ・保険料等収入は、8,119億円、前年から3.7%の減少。これは主に、保有契約高が減少したため。
- ・資産運用収益は、1,723億円、前年から16.2%の減少。
これは主に、利息及び配当金等収入および金銭の信託運用益が減少したため。
- ・保険金等支払金は、9,242億円、前年から14.9%の増加。
これは主に、団体年金保険の支払金および個人保険の解約返戻金が増加したため。
- ・資産運用費用は、2,884億円、前年から204.8%の増加。
これは主に、有価証券売却損・評価損およびその他運用費用が大幅に増加したため。
なお、資産運用関係収支（一般勘定）は△1,026億円、前年から2,300億円の減少。
- ・経常利益（△損失）は、△933億円、前年から1,979億円の悪化。
これは主に、資産運用関係収支が大幅に減少したため。
- ・当期純利益（△損失）は、△520億円、前年から825億円の悪化。
なお、危険準備金を294億円、価格変動準備金を315億円取り崩した。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・保険料等収入は、2,457億円、前年から83.3%の増加。
これは主に、変額個人年金保険の新契約が増加したため。
- ・資産運用収益は、286億円、前年から44.5%の増加。
- ・保険金等支払金は、863億円、前年から9.7%の減少。
これは主に、変額個人年金保険の解約返戻金が減少したため。
- ・資産運用費用は、1,031億円、前年から32.4%の増加。これは主に、特別勘定資産運用損が増加したため。
なお、資産運用関係収支（一般勘定）は279億円となり、前年から84億円の増加。
これは主に、変額個人年金保険の最低保証リスクに係るヘッジ益（金銭の信託運用益）が増加したため。
- ・経常利益（△損失）は、△268億円、前年から171億円の悪化。
これは主に、変額個人年金保険の新契約獲得および相場下落に伴い、最低保証リスクに係る責任準備金繰入額が増加したため。
- ・当期純利益（△損失）は、△198億円、前年から128億円の悪化。

【その他の指標等】

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
基礎利益	△270	1,868 減 (-)	450	80 減 (15.2%減)	△312	1,561 減 (-)	△408	226 減 (124.6%増)
逆ざや額	1,537	(注) -	202	26 増	1,298	(注) -	36	4 減

(注) 平成20年3月期に大同生命は217億円の順ざやであったため、3社合算および大同生命は逆ざや額の前年比を記載しておりません。

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当事業年度末	前年度末 比較増減	当事業年度末	前年度末 比較増減	当事業年度末	前年度末 比較増減	当事業年度末	前年度末 比較増減
ソルベンシー・マージン比率			866.4%	134.2ポイント低下	820.7%	274.6ポイント低下	836.8%	83.9ポイント低下
実質純資産	8,638	6,360 減	3,304	3,293 減	4,462	3,301 減	871	233 増
有価証券差損益(一般勘定)	△254	4,575 減	241	2,425 減	△526	2,164 減	29	15 増
うち公社債	485	468 減	384	246 減	70	236 減	29	14 増
うち株式	446	2,806 減	86	2,018 減	359	787 減	-	-
うち外国証券	△417	386 減	△232	239 減	△185	146 減	-	0 増
うちその他の証券	△769	822 減	△1	109 増	△768	932 減	-	0 増
うち金銭の信託	-	3 減	-	-	-	3 減	-	-
うち買入金銭債権	△0	87 減	3	29 減	△3	58 減	-	-
土地等の差損益	527	183 減	223	134 減	303	48 減	-	-

(注) 1. 有価証券差損益については、有価証券のうち時価のあるものを記載しております。
 2. 土地等の差損益については、原則として鑑定評価額(重要性の低い物件等については公示価格)をもとに算出しております。
 3. T&D保険グループのヨーロッパ・エンベディッド・バリュー(EEV)は、8,665億円(前年度末比7,551億円減)となりました。なお、太陽生命は2,958億円(同2,791億円減)、大同生命は6,074億円(同3,832億円減)、T&Dフィナンシャル生命は657億円(同97億円増)となりました。
 詳しくは、「平成21年3月末ヨーロッパ・エンベディッド・バリューの開示について」をご参照ください。

＜3社単純合算＞

- ・基礎利益は、△270億円、前年から1,868億円の減少。これは主に、大同生命で含み損となった投資信託の解約に伴う損失が多額に発生したため。
- ・実質純資産は、8,638億円、前年度末から6,360億円の減少。これは主に、その他有価証券の評価差損益が減少したため。
- ・有価証券差損益は、△254億円、前年度末から4,575億円の減少。これは主に、内外株価の下落等により株式・投資信託等の差損益が減少したため。

○太陽生命

- ・基礎利益は、450億円、前年から15.2%の減少。
逆ざや額は、202億円、前年から26億円の増加。
以上については主に、利息及び配当金等収入が減少したため。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、866.4%、前年度末から134.2ポイントの低下。
これは主に、株価の下落に伴い、その他有価証券の評価差損益が減少する中で、内外株式等の残高圧縮(リスク性資産の削減)を積極的に進めたため。
実質純資産は、3,304億円、前年度末から3,293億円の減少。
これは主に、株価の下落に伴い、その他有価証券の評価差損益が減少した一方、500億円の資本増強を行ったことによる。
- ・有価証券差損益は、241億円、前年度末から2,425億円の減少。

○大同生命

- ・基礎利益は、△312億円、前年から1,561億円の減少。
逆ざや額は、1,298億円(前年は217億円の順ざや)。
以上については主に、含み損となった投資信託の解約に伴う損失が多額に発生したため。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、820.7%、前年度末から274.6ポイントの低下。
実質純資産は、4,462億円、前年度末から3,301億円の増加。
以上については主に、700億円の資本増強を行ったものの、資産運用関係収支およびその他有価証券の評価差損益が大幅に減少したため。
- ・有価証券差損益は、△526億円、前年度末から2,164億円の減少。

○T&Dフィナンシャル生命

- ・基礎利益は、△408億円、前年から226億円のマイナスの拡大。これは主に、変額個人年金保険の新契約獲得および相場下落に伴い、最低保証リスクに係る責任準備金繰入額が増加したため。
- ・逆ざや額は、前年並みの36億円。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、836.8%、前年度末から83.9ポイントの低下。
これは主に、変額個人年金保険の新契約獲得に伴い、最低保証リスク相当額が増加したため。
実質純資産は、871億円、前年度末から233億円の増加。
これは主に、昨年12月に400億円の資本増強を行ったため。
- ・有価証券差損益は、29億円、前年度末から15億円の増加。

[平成22年3月期通期業績予想]

○T&Dホールディングス連結

平成22年3月期の通期業績予想は次のとおりです。

(単位：億円)

	平成21年3月期実績	平成22年3月期予想	増減
経常収益	25,398	20,100	5,298 減 (20.9%減)
経常利益 (△損失)	△1,838	780	2,618 増 (-)
当期純利益 (△損失)	△890	180	1,070 増 (-)

1株当たり年間配当金予想は45円です。

なお、上記の前提となる生命保険会社3社(単体)の平成22年3月期の通期業績予想は次のとおりです。

(単位：億円)

	太陽生命	大同生命	T&Dフィナンシャル生命
経常収益	9,100 (2,021 減) (18.2%減)	9,700 (2,805 減) (22.4%減)	2,700 (153 減) (5.4%減)
経常利益 (△損失)	410 (1,046 増) (-)	500 (1,433 増) (-)	△140 (128 増) (47.8%減)
当期純利益 (△損失)	110 (265 増) (-)	170 (690 増) (-)	△100 (98 増) (49.5%減)

(注) 括弧内は平成21年3月期からの増減額・率です。

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記業績予想と大きく異なることがあります。

以 上

(参考) 生命保険会社3社の平成22年3月期通期見通し

(単位：億円)

	3社合算	太陽生命	大同生命	T&Dフィナンシャル生命
基礎利益	1,010 (1,280 増) (-)	500 (49 増) (11.1%増)	550 (862 増) (-)	△40 (368 増) (90.2%減)
保険料等収入	16,900 (356 増) (2.2%増)	6,600 (633 増) (10.6%増)	7,800 (319 減) (3.9%減)	2,500 (42 増) (1.7%増)
逆ざや額	500 (1,037 減) (67.5%減)	170 (32 減) (16.0%減)	300 (998 減) (76.9%減)	30 (6 減) (17.9%減)
新契約高	63,000 (3,089 増) (5.2%増)	22,000 (1,868 増) (9.3%増)	38,600 (983 増) (2.6%増)	2,400 (237 増) (11.0%増)
保有契約高	575,500 (5,471 減) (0.9%減)	176,800 (3,247 増) (1.9%増)	377,400 (8,818 減) (2.3%減)	21,300 (99 増) (0.5%増)
解約失効率 (%)		7.5 (0.2ポイント上昇)	9.8 (0.2ポイント低下)	5.7 (0.3ポイント低下)

(注) 1. 括弧内は平成21年3月期からの増減額・率です。

2. 新契約高、保有契約高および解約失効率は、個人保険と個人年金保険の合計です。

また、新契約高には転換による純増加高を含みます。

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記見通しと大きく異なることがあります。

(参考) 契約者配当

○太陽生命

①個人保険・個人年金保険

- ・毎年お支払いする通常の配当金

利差配当・・・前年度配当率を据え置きます。	
予定利率2%以下	1.95%－予定利率
予定利率2%超、4%以下	1.75%－予定利率
予定利率4%超	1.55%－予定利率

死差配当・・・前年度配当率を据え置きます。

費差配当・・・前年度配当率を据え置きます。

災害疾病関係特約等に対する配当・・・前年度配当率を据え置きます。

- ・消滅時などにお支払いする特別配当金

前年度に引き続き実施します。

消滅時配当（責任準備金比例）・・・責任準備金に対して（〔〕内は経過年数を表します）

予定利率が4.0%以下の契約

 満期・死亡の場合 2%〔42年〕～14.0%〔47年〕

 解約の場合 2%〔44年〕～9.2%〔同上〕

予定利率が4.0%超の契約

 満期・死亡の場合 2%〔43年〕～11.6%〔同上〕

 解約の場合 2%〔45年〕～6.8%〔同上〕

消滅時配当（保険料比例）・・・死亡部分の年間営業保険料に対して（〔〕内は経過年数を表します）

16%〔14年〕～361.6%〔32年〕

疾病健康配当

・・・10年以上経過して消滅かつ給付金支払のない疾病保障特約等
について入院給付金日額1,000円につき1,500円

②団体保険

- ・前年度配当率を据え置きます。

③団体年金保険

・利差配当・・・予定利率1.00%	0.40%	企業年金保険・新企業年金保険・厚生年金基金保険・ 国民年金基金保険・団体生存保険および新団体生存保険
予定利率1.25% （払戻調整金あり）	0.40%	確定給付企業年金保険
予定利率1.25% （払戻調整金なし）	0.15%	拠出型企業年金保険

○大同生命

①個人保険・個人年金保険

- ・毎年お支払いする通常の配当金

利差配当・・・前年度配当率を0.55ポイント引き下げます。

 予定利率2%以下 1.50%－予定利率

 予定利率2%超、4%以下 1.30%－予定利率

 予定利率4%超 1.10%－予定利率

ただし、一時払のご契約（一部の契約は除きます）は、前年度配当率を0.20ポイント引き下げます。

死差配当・・・前年度配当率を据え置きます。

費差配当・・・一部のご契約について前年度配当率を引き下げます。

災害疾病関係特約等に対する配当・・・前年度配当率を据え置きます。

- ・消滅時にお支払いする配当金

前年度配当率を引き下げます。

②団体保険

- ・利差配当は、個人保険・個人年金保険と同様の引き下げを行います。

- ・死差配当および費差配当は、据え置きます。

③団体年金保険

- ・利差配当を0とします。